

Case11-2015: A 28-Year-Old Woman with Headache, Fever, and a Rash  
(New England Journal of Medicine 2015 April 9;372:1454-62)

【患者】28 歳女性 【主訴】頭痛、発熱、発疹

【現病歴】

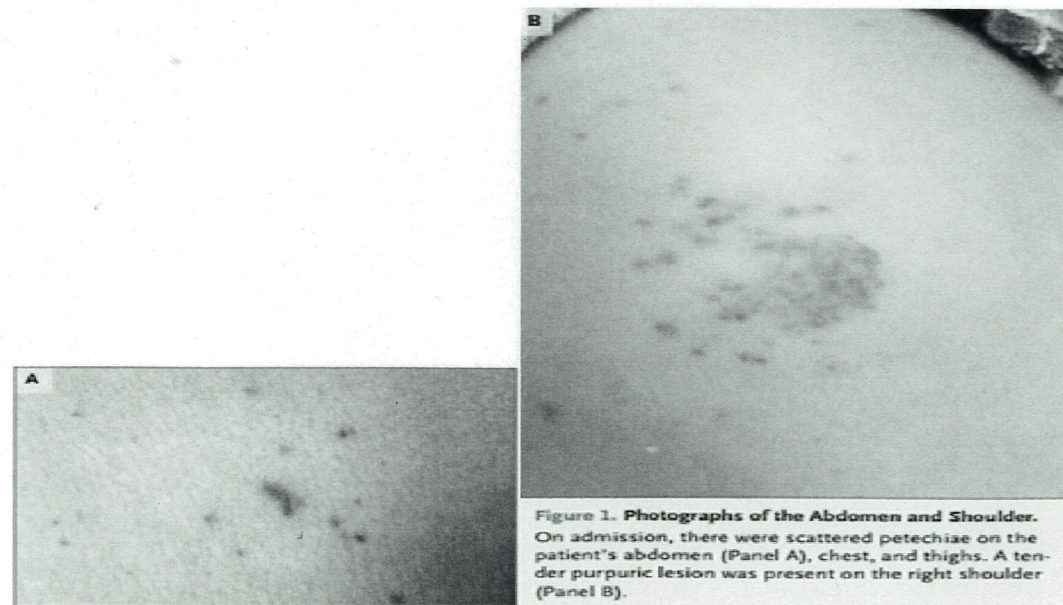
救急外来受診日の朝、ひどい頭痛で目が覚めた。頭痛は体動で悪化し、アセトアミノフェンとイブプロフェン内服で改善しなかった。嘔気もあり、一回嘔吐した。嘔吐物に血は混ざっておらず、胆汁性でもなかった。患者は再び寝たが、数時間後また目が覚め、その時には筋肉痛もあり、体温を測ると 37.7℃だった。またこの時、腹部、胸部、右腕に発疹があるのに気が付いた。発疹の範囲は小さく、赤く平坦で、掻痒感や痛みはなかった。家族の勧めで来院した。

<来院時現症>

来院時、嘔気は改善したが、やや頸部硬直があった。9 歳の時の細菌性髄膜炎の時と似たような感じがすると訴えた。

【バイタル】意識清明、BT 37.3℃、HR 92bpm、BP 112/68mmHg、RR 18/min、SpO2 100%(room air)

【身体所見】胸部、腹部、大腿に点状出血、右肩に紫斑があった(figure 1)。その他異常所見なし。



<検査>

【Labs】table 1 に示す。WBC↑(好中球優位)、Plt↓、K↓、間接 Bil↑、P↓、Mg↓

【インフルエンザウイルス迅速試験】陰性

【RS ウイルス迅速試験】陰性

【尿検査】黄色で軽度混濁。ビリルビン(1+)、潜血(1+)、アルブミン(1+)、ウロビリノーゲン(1+)、WBC 3-5/HPF、RBC 5-10/HPF、細菌(1+)、移行上皮(1+)、尿細管細胞(1+)、扁平上皮(1+)、無定形結晶(1+)、ムチン(1+)

【既往歴】交通事故(ずいぶん前。詳細不明)10ヶ月前に腎結石症。不安神経症。中耳炎、副鼻腔炎、肺炎、皮膚感染症の既往はない。

【内服薬】シタロプラム、低用量ピル

【ワクチン】髄膜炎菌を含め、摂取済み

【アレルギー】なし

【生活歴】独居、弁護士。最近、海外渡航歴とシックコンタクトはない。最近新しい恋人ができたが性行為はない。機会飲酒、喫煙歴なし、違法薬物使用歴なし。両親が近くに住んでいて、両親が飼っている犬 2 匹との接触はあるが、最近噛まれてはおらず、その他に動物との接触はない。

【家族歴】免疫不全や自己免疫疾患の家族歴はない。

<経過>

血液培養と尿培養を提出し、ロラゼパムを投与してルンバルを施行した。その後、セフトリアキソン、バンコマイシン、アシクロビル、デキサメタゾン静注した。CSF の結果を Table1 に示す。

到着 90 分後、BT39.0℃、HR122/min に悪化した。

その後 3 時間で、点状出血が体幹、腕、足に広がった。アセトアミノフェン、イブプロフェン、メトクロプラミド、塩化カリウム、リン酸カリウム、リン酸ナトリウムが投与された。

入院し経過を見ることにした。

入院 1 日目、頭痛は続き、頸部硬直もややあった。しかし解熱し、脈拍数も正常範囲に下がり、筋肉痛もなくなった。その他の身体所見は変化なかった。L/D は table 1 の通りだった。セフトリアキソン、バンコマイシン、デキサメタゾンを継続した。

入院 2 日目、診断的検査の結果が出た。さらなる診断的検査を行った。